

第2章

地区別のガイドライン

1

センターゾーン

地区の概要

地区の特性（現況・課題等）

- 〔地理的条件〕
 - ・首都圏有数のターミナル駅である横浜駅を含む中心エリア
 - ・川に囲まれ、一部海に面したエリア
- 〔土地利用特性〕
 - ・駅近接の大型商業ビル、地下街等からなる商業機能集積地
 - ・来街者や観光客を受け入れる玄関口
 - ・国際交流拠点としての機能の充実が必要
- 〔歩行者ネットワーク・交通〕
 - ・交通アクセスや乗換利便性などの駅機能の強化が必要
 - ・駅東西をつなぐ動線や、地下との接続部のアップダウンなどに対してゆとりある歩行環境が必要
 - ・駅周辺の道路への自動車の集中や通過交通の流入により慢性的な渋滞が発生
- 〔景観・環境等〕
 - ・緑地やオープンスペース、河川を生かした親水空間等が少ない。
 - ・魅力的な空間、横浜らしさを感じさせる景観形成が必要
 - ・老朽化した建物等が多く、災害安全性の向上、環境負荷低減等が必要
 - ・地下街等、浸水した場合、被害が甚大になる恐れがある。

地区の将来イメージ

- ・国内外からのビジネス客、観光客、首都圏一円からの買い物客、横浜都心の就業者、鉄道やバスの乗り換え客など、多様な人々が集まり活動する場所として、広域的な商業機能、宿泊機能、文化・交流機能、業務機能など、交通の拠点としての利便性を生かした高度で多様な都市機能が集積されている。
- ・横浜の玄関口として、羽田空港等への快適なアクセスが確保され、駅や駅前広場、歩行者空間や広場空間などが横浜らしくデザイン性に優れた公共空間として整備されている。また、玄関口にふさわしいシンボリックな景観が形成されている。
- ・縦横につながる歩行者空間が広場空間などを通じてわかりやすく快適につながり、初めての来訪者にも安心して回遊できる環境が整備されている。
- ・先端的な情報技術とホスピタリティによって、街や観光に関する情報提供や相談窓口のサービスが提供されるなど、誰もが安心できる横浜のコンシェルジュ機能が備えられている。
- ・駅近隣という立地の良さから、シンポジウムや会議・セミナー等が開催できるスペースや、大学のサテライトキャンパスなどの機能を備えている。

ガイドライン

(1) 都市機能の導入・育成

基本的考え方

センターゾーンは、国内外を問わず多数の人々が集まる首都圏有数の交通ターミナル機能を有し、ビジネス、文化活動、ショッピングなど、様々な来街者のアクティビティを誘発する拠点です。この強みを生かし、国際都市横浜のポテンシャルを更に高める都市機能の集積を進めます。

ガイドラインの内容

既存の充実した商業・業務機能等を生かしつつ、更に機能の集積を図ります。

■おもてなしの機能

- 広域・国際的なにぎわいを持った商業機能・文化創造機能
 - ・外国人サービスの充実した商業施設、日本を感じさせるにぎわい施設、文化体験型ショールーム、イベントホール など
- 宿泊・滞在機能
 - ・多様なサービスを提供する国際水準のホテル・サービスアパートメント など
- 情報発信機能
 - ・観光案内・ツアーデスク、多言語対応のインフォメーションセンター、企業PRスペース など

■ビジネス・MICEの機能

- グローバルオフィス機能
 - ・大街区化等による大規模フロアのオフィス、駅直結、事業継続を支える防災機能等の優位性のあるオフィス など
- ビジネスサポート機能
 - ・ミーティングルーム、ショールーム等を備えた複合空間、ワンストップサービス など
- MICE機能
 - ・多用途に使える大・中小会議室、イベントホール、展示・商談スペース など

■安全・安心で便利な生活のための機能

- 防災機能
 - ・避難経路、災害情報システム、滞留スペース、備蓄倉庫 など
- 市民サービス機能
 - ・市民学習・教育施設、文化活動支援施設、子育て支援関連施設 など

1 センターゾーン

(2) 都市景観の形成

基本的考え方

国際都市横浜の玄関口である駅周辺においては、「ゲート性の創出」「都市活力の演出」「うるおいの体感」という視点に基づき、多様なシーンが展開し、ドラマ性を感じられる都市景観の形成を目指します。

ガイドラインの内容

交通結節空間、歩行者空間・親水空間、建物群像において、次のとおり都市景観の形成を進めます。

交通結節空間

■横浜の玄関口にふさわしい交通結節空間の形成

【取組みの例】

- 「横浜らしさ」を感じられる景観の形成
- 横浜の玄関口にふさわしいオープンスペースの創出
- 多彩なアクティビティが誘発される空間の形成
- 明るく開放感のあるターミナルコアの形成
- デッキやテラス等、視点場の導入の検討
- 駅前広場、ターミナルコア、線路上空間の連続による駅東西のつながりが感じられる景観の形成
- 来街者からの視線を意識し、圧迫感の低減や線路側への顔向けに配慮した低層部の壁面デザイン

歩行者空間・親水空間

■歩行者目線に配慮した、来街者にとって快適な歩行者空間・親水空間の形成

【取組みの例】

- 建物相互のつながりや、建物と歩行者空間・親水空間とのつながりが感じられる景観の形成
- 河川、街路沿いの屋外テラスなど、憩いやたまり空間の活用
- 水辺に顔を向けた建物整備や水上交通の導入等による、水面を利用したにぎわいの演出
- 駅前広場、壁面、屋上、舗装面、建物内などの緑化による重層的な緑化空間の形成
- 魅力的な待ち合わせ空間の創出

建物群像

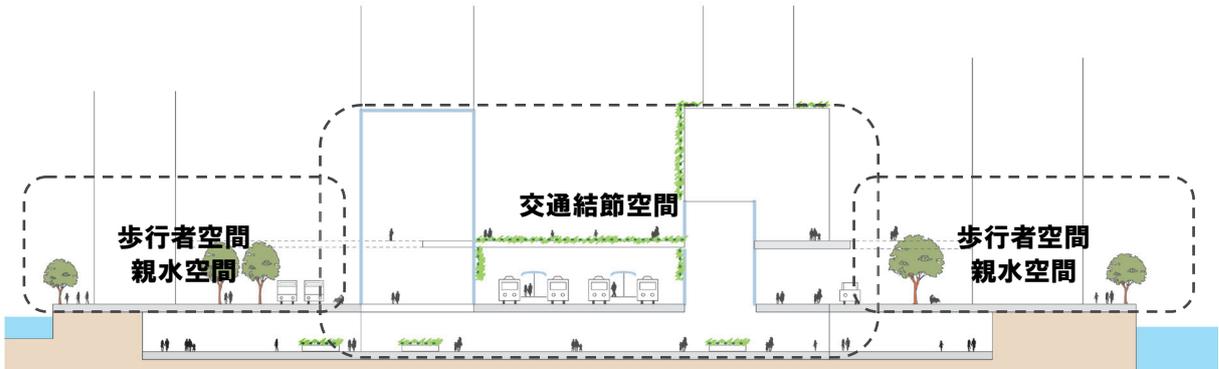
■個性を尊重しながらも、全体としてのまとまりが感じられる象徴的な建物群像の形成

【取組みの例】

- 個々のデザインを尊重しつつ、水、緑、光、ハマ風などの自然要素を活かしたにぎわいや潤いの空間、建物頂部デザイン、ライティングなどで建物相互のつながりを形成することによる、まとまり感のある象徴的な建物群像の形成
- 建物高層部などを活用し、海とのつながりを重視した景観の形成
- 高層建築物については、建物相互のつながりやまとまり感をふまえ、国際都市横浜としての玄関口にふさわしい建物群像の形成

都市景観の形成イメージ

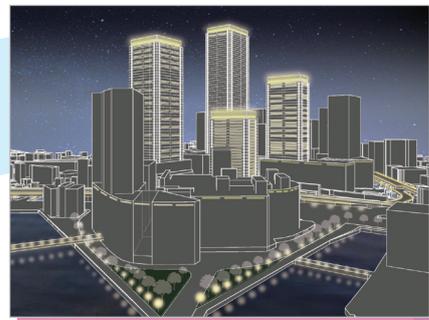
【景観形成を展開する空間】



【景観形成における3つの視点】



エントランス性のある駅前広場

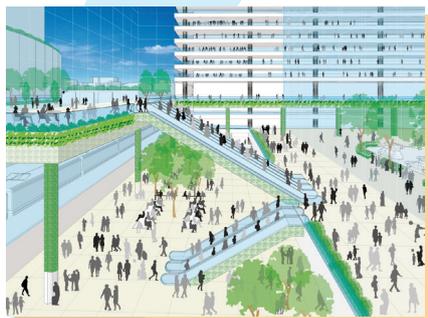


個性を尊重しつつもまとまり感のある建物群像

ゲート性
の創出



ハマ風を感じられる憩いの場



開放感やにぎわいがあるターミナルコア

多様なシーンが展開し
ドラマ性の感じられる
都市景観の形成

都市活力
の演出



ゆとりやにぎわいのある歩行者空間



水辺を活かした夜間景観

うるおい
の体感

※上図はイメージであり、実際の場所や形態を特定するものではありません。

デザインコンセプト

【西口駅前デザインコンセプト】

- 横浜らしさを感じさせる、水、緑、光、ハマ風などを意識した景観形成
- 横浜駅西口の顔として、人にやさしく街の象徴となる景観形成
- まちの活力を感じられる景観形成
- 人々に期待感を与えるような、周辺とのつながりが感じられる景観形成

【線路上空デザインコンセプト案】

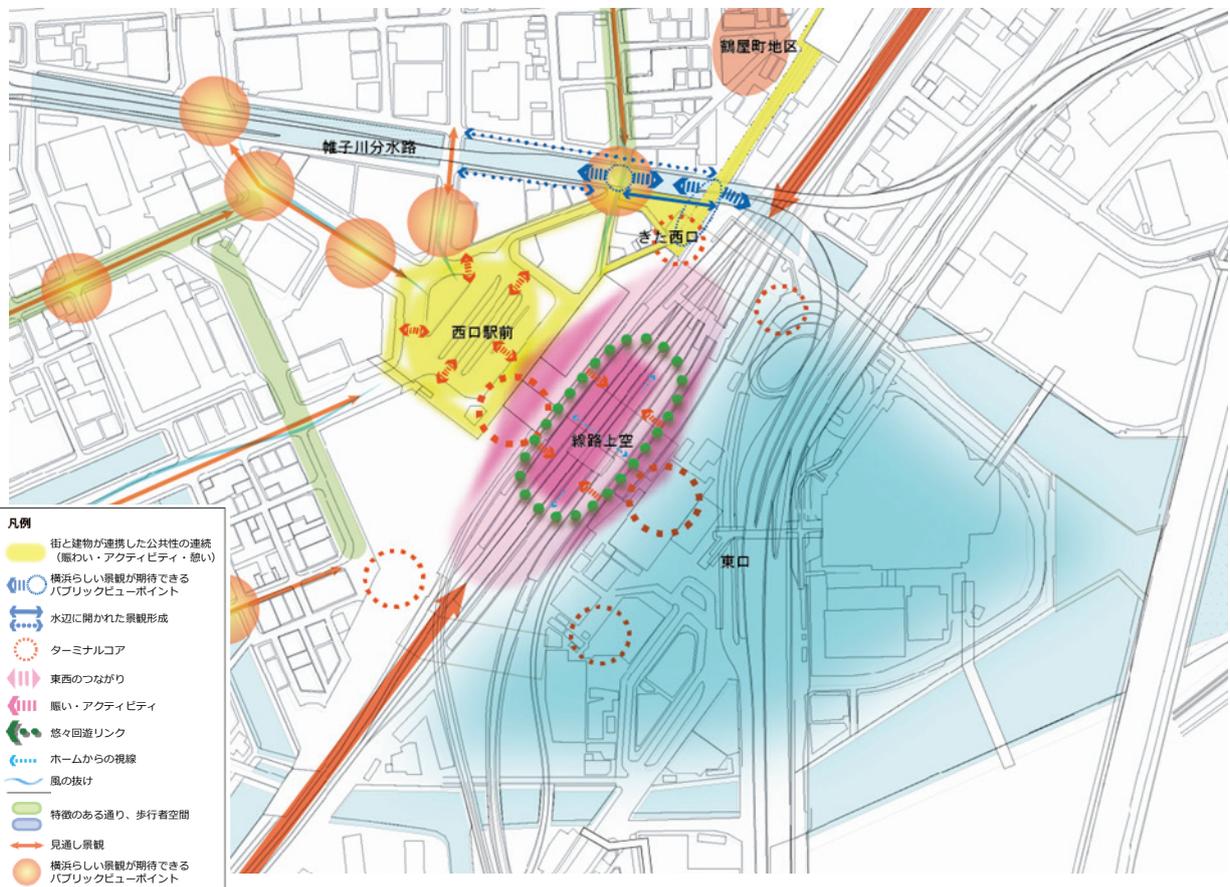
- 水、緑、光、ハマ風など、「みなとまち横浜」の雰囲気を感じられる景観形成
- 横浜の玄関口として公共性、開放性を有した景観形成
- 多様なドラマ性を有した重層的なアクティビティを感じられる景観形成
- 駅×街空間の中心として、東西の街に開かれた回遊性のある景観形成

【きた西口デザインコンセプト】

- 水辺との隣接を活かし、水・緑・光・ハマ風を感じられる潤いある景観形成
- 歩行者とのネットワーク拠点として、わかりやすく開放的な空間形成
- にぎわいや公共性の連続を誘発するような、2つの広場をつなぐ街路空間の形成

【東口デザインコンセプト】

- 常に新しい魅力を発信して、世界・他都市からの多様な人々を惹きつける
- 横浜らしい魅力を発揮する場所として、街に来る人が水を感じ体感できる
- 快適で回遊性の高い歩行者空間として、訪れる誰もが歩いて東口を楽しめる



【西口駅前デザインコンセプト、取組みの例】

○水、緑、光、ハマ風など「みなとまち 横浜」の雰囲気を感じられる景観形成

【取組みの例】

- ・水やハマ風など、海と川に囲まれた「みなとまち 横浜」を感じられる景観の創出
- ・界索性の高い街の中でも、随所に横浜の持つ文化性、歴史性を感じられる景観形成
- ・歩行者空間や建物の壁面、屋上等における重層的な緑により、広がりある潤いを感じさせる景観の演出

○横浜駅西口の顔として、人にやさしく街の象徴となる景観形成

【取組みの例】

- ・公共と民間が連携し、公共交通機能を確保しつつ歩行者を中心とした憩い、公共性を感じられる景観形成
- ・駅前広場と周囲の建物の一体性、視線の広がりを感じさせる景観形成
- ・地区の拠点として周辺市街地や主要な通りとの連続性、視認性を持った景観形成
- ・高層部の隣棟間隔の確保や壁面の分節等による、駅前広場への圧迫感の軽減や日照の確保に配慮した景観形成

○まちの活力を感じられる景観形成

【取組みの例】

- ・ヒューマンスケールで連続するにぎわいを感じられるファサードデザイン
- ・透過性の高い開口部や人の自由な出入りなど、建物内外をシームレスにつなぐアクティビティの誘発
- ・公共空間と建物が連携し、駅西口のにぎわいや憩いを感じられる街路景観の創出
- ・個々のデザインを尊重しつつ、建物間での緩やかな調和を図ったにぎわいの創出

○人々に期待感を与えるような、周辺とのつながりを感じられる景観形成

【取組みの例】

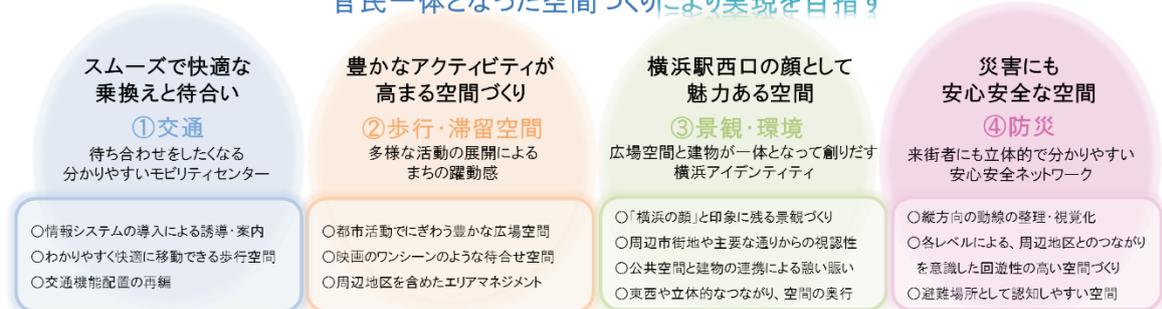
- ・東西のつながり、空間の奥行きや地下からデッキレベルまでの立体的なつながりを感じられる景観形成
- ・多様な視点からの線路上空や海への眺望に配慮
- ・歩行者ネットワークの拠点における建物内のたまり空間等、歩行者空間のつながりを感じさせる景観形成

●西口駅前まちづくり検討会のまとめ

◇西口駅前空間の再編方針 コンセプト (HUMAN ENERGY CORE)

横浜の玄関口として「人に優しい駅前空間」をつくる

官民一体となった空間づくりにより実現を目指す



「人に優しい」とは、快適性と活力が両立できる「人」を中心とした空間であること

コンセプト



横浜駅西口駅前には、「人に優しい駅前空間」として、
まちとの「つながり」があり、自分らしい「ゆとり」が持て
皆で「たまり」たくなる、みんなのための「ひろば」
を目指します

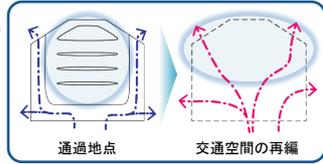
◇「HUMAN ENERGY CORE」を実現するための5つの空間形成方針

①「都市軸」と「ストリート」により地域力が「循環する」

駅前エリア全体の広がり認識を容易にし、回遊性を高めるため、東西の分断を解消する「都市軸」と、西口周辺地域（南幸・北幸・鶴屋）の相互波及を図る「ストリート」を形成する

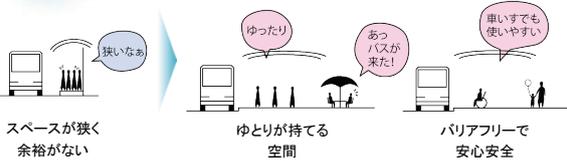
②快適な交通結節点により豊かさを「高める」

スムーズで快適な乗換えと待合を実現するため、地下街などを含めた官民連携により、駅前広場を再編する



待合

乗換えの時間を楽しめ、ゆとりある待合が可能な広場空間を共同でつくる



スペースが狭く
余裕がない

ゆとりが持てる
空間

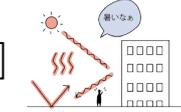
バリアフリーで
安心安全

③都市の「ひろば」で活動を「育む」

人々が心地よく集い、時間を費やすことができる、憩いの空間を形成するため駅前広場に快適な空間を官民連携によりつくる



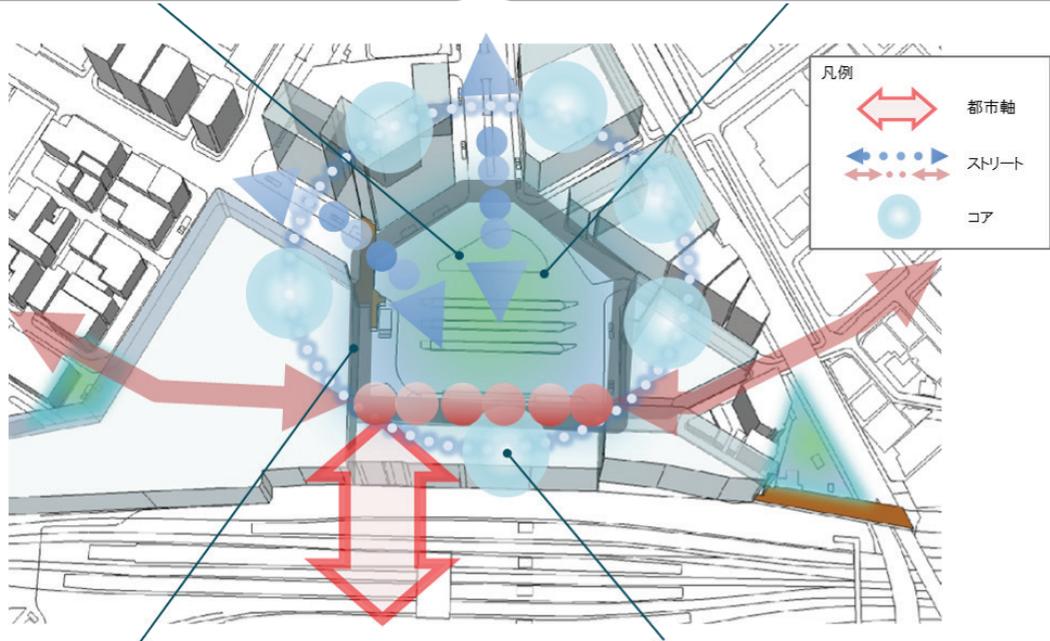
熱環境



壁面緑化など

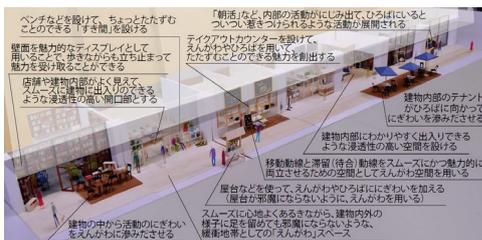


圧迫感



④「都市の縁側」によりまちに「近づく」

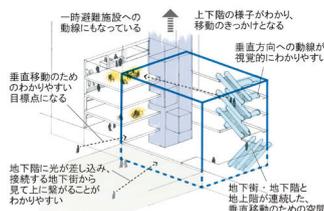
道行く人々が建物内のアクティビティを容易に認識でき、自然と足を止めたくなるような「仕掛け」をつくるため、官民境界に都市の「縁側」をつくる



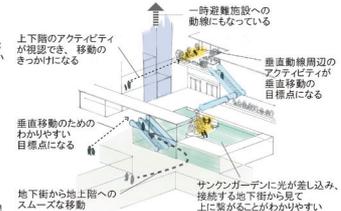
⑤コアにより回遊性を「つなぐ」

来街する人々が建物内外のアクティビティや目的場所を縦方向でわかりやすく視認でき、安心して安全な回遊と滞在の「きっかけ」をつくるためコアをつなぐ

【アトリウム】



【サンクンガーデン】



【線路上空デザインコンセプト、取組みの例】

○水、緑、光、ハマ風など「みなとまち 横浜」の雰囲気を感じられる景観形成

【取組みの例】

- ・高層棟上部からの海への視点場をつくるなど「みなとまち横浜」を感じられる空間の創出
- ・重層的な緑化による潤いある景観の演出

○横浜の玄関口として公共性・開放性を有した景観形成

【取組みの例】

- ・交通結節点であると同時にまちのノードとして公共性、開放性の高い空間を有した新しい都市景観を創出する
- ・鉄道や首都高の車窓など南北方向からの視認性を意識した景観形成

○多様なドラマ性を有した重層的なアクティビティを感じられる景観形成

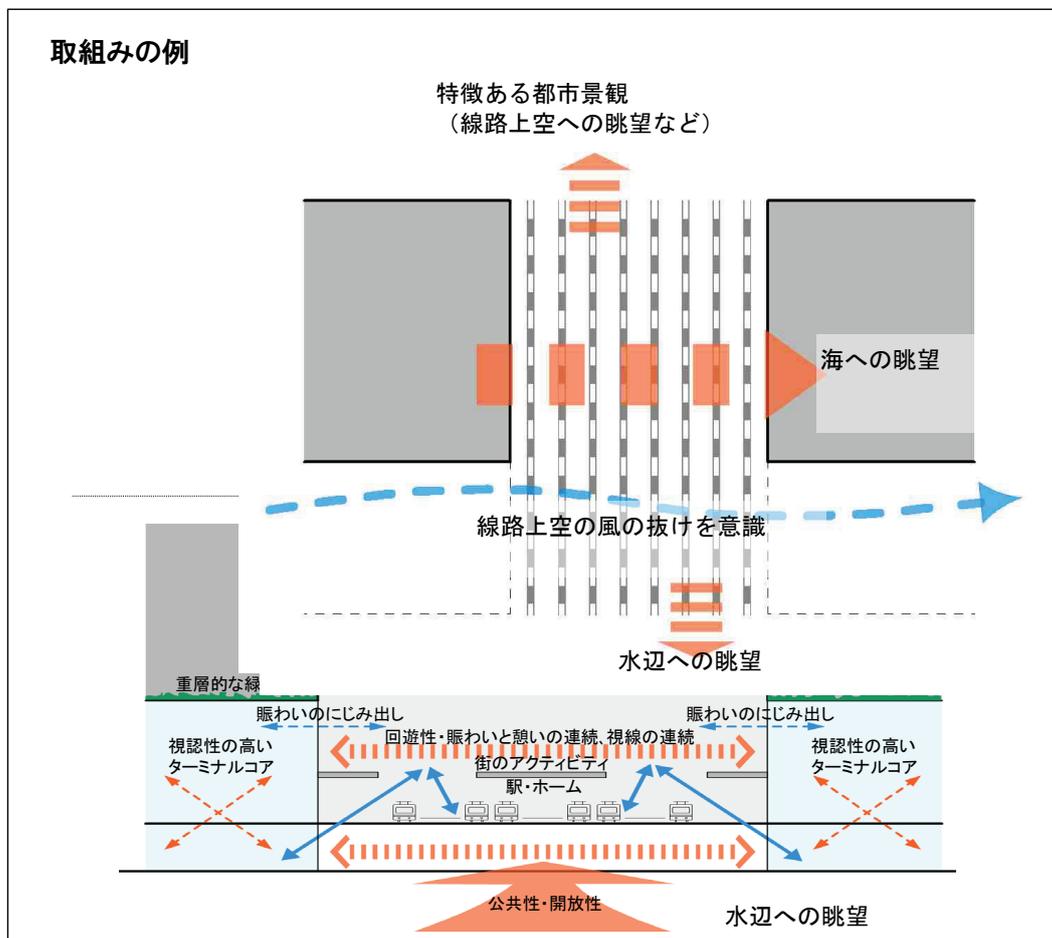
【取組みの例】

- ・乗降ホーム、デッキ、建物など様々なレベルから街のアクティビティを感じられる景観形成
- ・線路側にも顔を向けた建物ファサード
- ・建物の配置、形状において線路上空への日照の取り込みや圧迫感の軽減に配慮

○駅×街空間の中心として、東西の街に開かれた回遊性のある景観形成

【取組みの例】

- ・ターミナルコアを介して、東西の駅前広場や地下、地上、デッキの回遊性を感じられる景観形成
- ・駅東西ゾーンを繋ぐ、ヒューマンスケールでのにぎわいと憩いが連続する景観形成
- ・駅東西ゾーンとの視線の連続性を確保した景観形成



【きた西口デザインコンセプト、取組みの例】

○水辺との隣接を活かし、水・緑・光・ハマ風が感じられる潤いある景観形成

【取組みの例】

- ・河川に開かれ、駅前と水辺の一体性を感ずることができずるヒューマンスケールな景観形成
- ・限られたスペースにおいても開放性のある重層的な緑化や風を感ずられる環境配慮を体現した空間形成
- ・河川を見とおす視点場の創出や水辺に顔を向けた建物など水辺のまちを感ずられる景観形成

○歩行者ネットワークの拠点として、わかりやすく開放的な空間形成

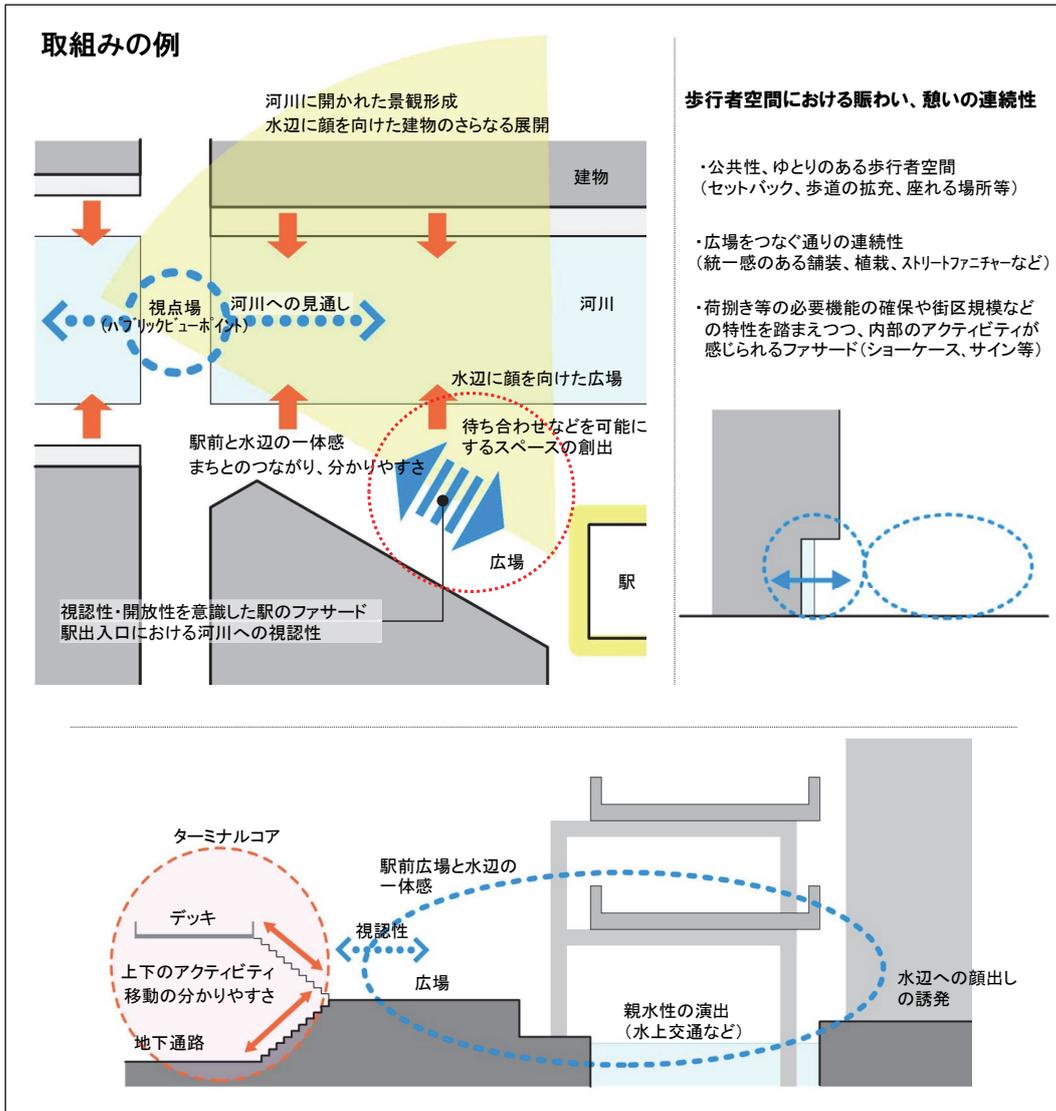
【取組みの例】

- ・視線を阻害せず、周囲から広場や駅出入口が視認でき、開放性・健全性の高い空間形成
- ・地下、地上、デッキをつなぐターミナルコアにおいて、まちとのつながりを持った分かりやすい景観形成

○にぎわいや公共性の連続を誘発するような、2つの広場をつなぐ街路空間の形成

【取組みの例】

- ・西口、きた西口、鶴屋町地区などをつなぐ歩行者空間におけるにぎわい、憩いの連続性の創出
- ・建物側、都市側で補完しあいながら、公共性を持ったゆとりある歩行者空間の形成



【東口デザインコンセプト、取組みの例】

○国際交流の玄関口として港湾の発展とともに近代化した横浜市の中心である「横浜駅東口」は、常に新しい魅力を発信して、世界・他都市からの多様な人々を惹きつける

【取組みの例】

- ・誰もが心地よく快適に、移動や滞在を楽しむことができる玄関口を形成する
- ・「みなとまち 横浜」を感じられる空間を形成し、ヒューマンスケールでの美しい景観を創出する
- ・発着地点に相応しい賑わいを感じられ、活力を生み出す施設の立地や機能を導入する

○横浜のインナーハーバーをつなぐ「水辺空間」は、横浜らしい魅力を発揮する場所として、街に来る人が水を感じ体感できる

【取組みの例】

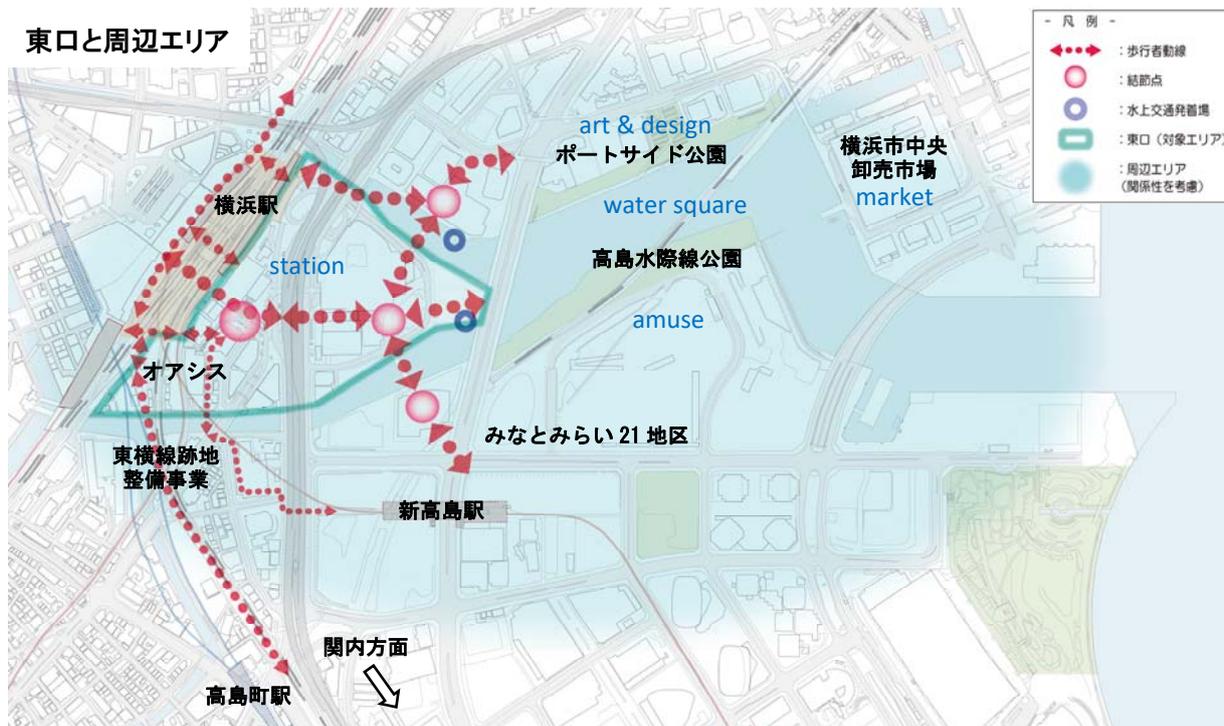
- ・水上交通発着所は賑わいの機能を設けるとともに、インナーハーバー地区内の拠点と複合的な水上交通のネットワークを構築する
- ・みなとみらい21地区、横浜市中央卸売市場などとの連携を考慮しながら、水上や水辺でのアクティビティに必要な機能や仕掛けづくりを行う
- ・水上や対岸からの視点を意識した景観に留意するとともに、水辺との一体感や回遊を創出する設えを工夫する

○みなとみらい21地区など魅力的な周辺地区とつながる「デッキ」は、快適で回遊性の高い歩行者空間として、訪れる誰もが歩いて東口を楽しめる

【取組みの例】

- ・周辺の横浜らしい都市景観を享受できるとともに、ゆとりを持って自由に楽しく回遊できる空間を創出する
- ・デッキでつながる地区の特徴を生かしたデッキ整備を行うとともに、結節点広場の整備や隣接建物との融合などで、多様な使い方を工夫する
- ・賑わいが連続し快適で居心地の良い一体的なデッキ空間を形成するため、各々のデッキや隣接する建物の所有者などで一体的なマネジメント実現に向けて取り組む

東口と周辺エリア



※デザインコンセプトを取りまとめるため関係者で検討した内容については、横浜市のホームページにて掲載しています。ヒントや手がかりが多くあると思いますので、計画を行う際には参考にしてください。

1 センターゾーン

(3) 立体的な歩行者ネットワークの構築（ターミナルコアの整備）

基本的考え方

駅とまちをつなぐ立体的な歩行者ネットワークの構築に向けて、重要な結節を担うターミナルコアにおいては、様々な役割や機能を複合化し担わせる空間づくりを誘導します。また、ターミナルコアの整備に合わせ、ユニバーサルデザインに配慮した、円滑な移動動線の整備を推進します。

ガイドラインの内容

立地特性や処理動線などに配慮しながら、駅と駅あるいは駅と街とを円滑に結び、魅力的なターミナルコアを整備します。

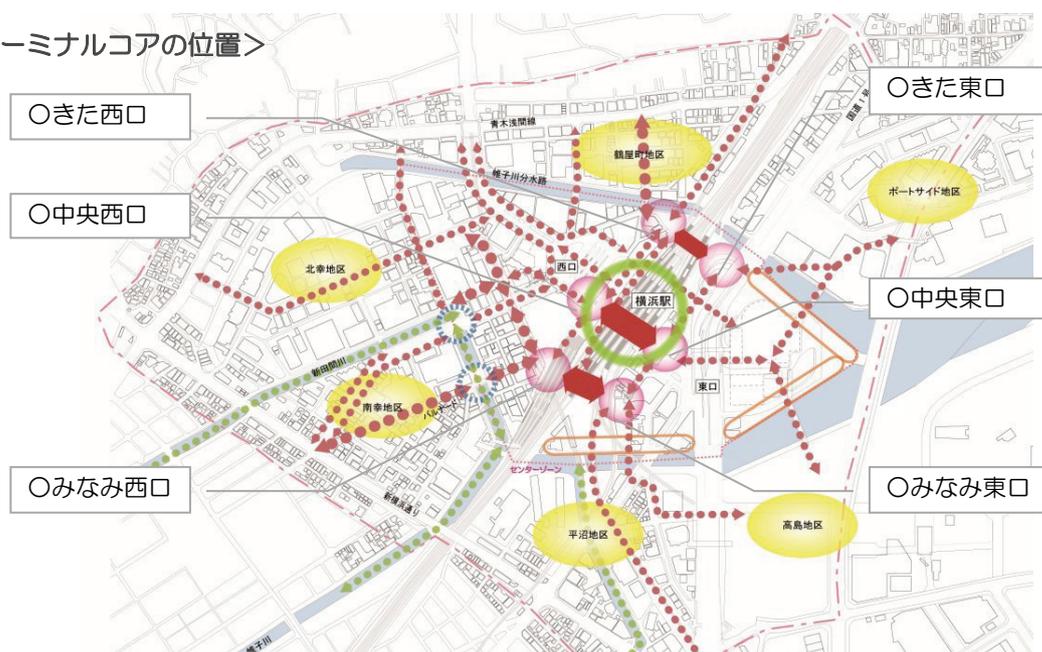
■ターミナルコアの形成における基本的な配慮事項

- 拠点開発とまちを結びつけるネットワーク結節点としての機能（水平方向）
- 地上や地下、上空を有機的に結びつけるネットワーク結節点としての機能（垂直方向）
- 狭小な駅前空間を補う、広場等と連なる広がり
- 駅東西南北の方向性を意識させる視認性
- 円滑な移動を支援するためのバリアフリー化・案内サインの充実などの実施

■各ターミナルコアの特性に応じて、特に配慮されるべき事項

- 中央西口：シンボリックな空間、回遊性向上や溜まりなどの交流の場、地下街・駅前広場・デッキレベルの3方の円滑な動線処理、交流・情報発信機能の補完
- 中央東口：シンボリックな空間、出島地区・みなとみらい21地区等周辺との円滑な往来、地下街・駅前広場・デッキへの円滑な移動、交流・情報発信機能の補完
- きた西口：駅と鶴屋町方面との円滑な往来、帷子川分水路の水辺への誘導空間
- きた東口：ポートサイド地区との円滑な往来、水上交通関連施設への誘導空間
- みなみ西口：パルナード等のにぎわいの通り空間や幸川等の親水空間と一体となった回遊性の向上、地下乗換・地上・デッキの3方の円滑な動線処理
- みなみ東口：高島地区・みなとみらい21地区等周辺との円滑な往来、帷子川の水辺への誘導空間、地下乗換・駅前広場・デッキの3方の円滑な動線処理

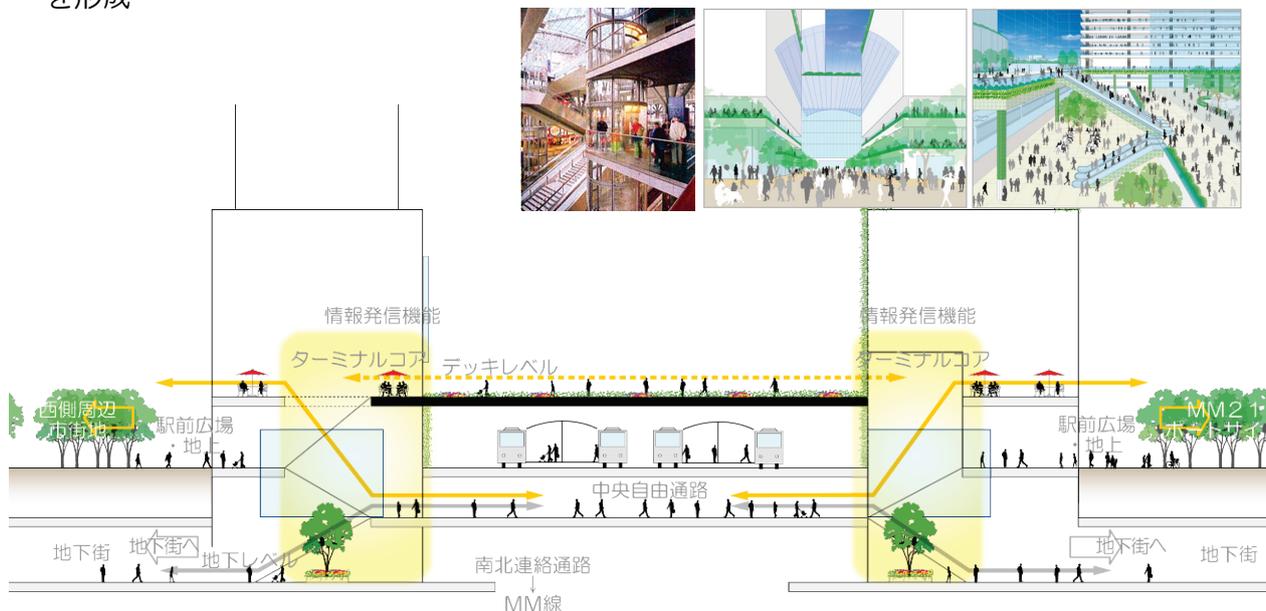
<各ターミナルコアの位置>



ターミナルコアの整備イメージ

【ターミナルコアの空間形成イメージ】

駅直近街区や駅東西を結ぶデッキ・自由通路と連携し、回遊性が高く、にぎわいのあるセンターゾーンの一翼を担う、デッキ・地上・地下が一体となった、象徴的で魅力的な結節空間を形成



【各ターミナルコアの現状の特徴と期待する役割】

○きた西口：

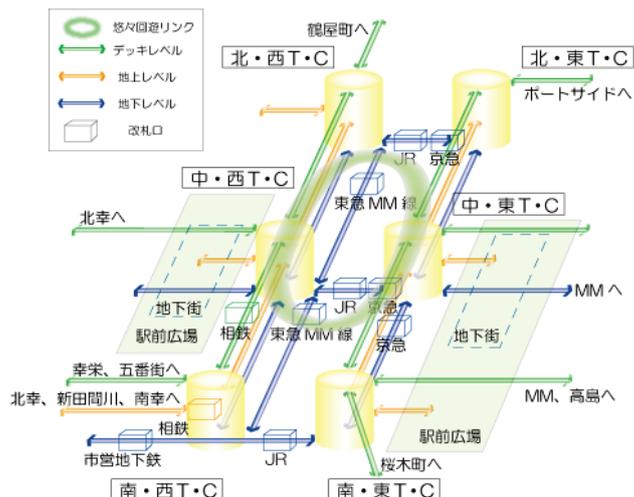
駅空間と鶴屋町方面との往來の結節
⇒帷子川分水路の水辺空間への誘導

○きた東口：

駅前とポートサイド地区との往來の結節
⇒帷子川分水路で展開する水上交通関連への移動

○中央西口：

動線集中度が高い
⇒横浜の顔となるシンボル空間を形成するとともに、回遊性の向上や溜まりなど交流の創出



○中央東口：

動線集中度が高い出島・みなとみらい21地区との重要な結節
⇒YCATや観光拠点関連の円滑な移動の支援

○みなみ西口

パルナード等のにぎわいの通りや幸川沿い親水空間との結節⇒回遊性向上、地下との円滑な往來支援

○みなみ東口：

みなみ通路やみなとみらい21地区・高島方面との結節⇒地下・地上・デッキの円滑な移動支援

1 センターゾーン

(4) 環境分野

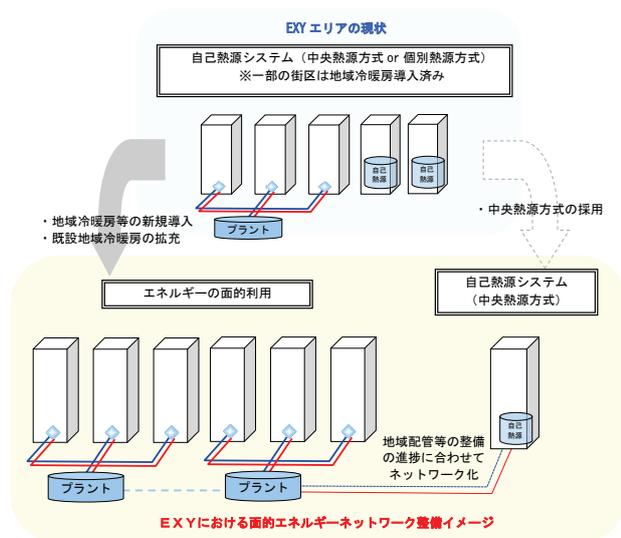
基本的考え方

建物間・地区間のエネルギーネットワークや再生可能エネルギー等の活用により、センターゾーンにおける災害安全性を高める自立・分散型エネルギーマネジメントシステムの構築を図ります。

ガイドラインの内容

■エネルギーの面的利用の促進

- 建替えや開発に合わせて、段階的に面的エネルギーネットワークを整備することで、**発災時にも地域のエネルギー自立性が高まる分散型・低炭素型エネルギーマネジメントの構築を推進。**
- 建替えの際、やむを得ず、自己熱源方式を採用する場合においても、面的エネルギー化に対応可能な中央熱源方式の採用が前提。



その他の具体的取組みの内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（2 環境分野）」を参照してください。

(5) 防災・防犯分野

基本的考え方

センターゾーンは、首都圏有数の交通ターミナル機能を有し、駅東西には地下街が形成され、又、それぞれ大型商業施設が立地しており、発災時には、特に多くの滞留者や帰宅困難者の発生が予測されます。

駅周辺での混乱を防止するため、滞留者・帰宅困難者の発生抑制や滞留スペース等の整備、災害情報の提供などの対策を進めます。また、「地域の対応ルール」等を活用した滞留者・帰宅困難者の支援など、民間と行政が協力・連携しながら、発災前から災害時にわたる取組みを推進し、安全・安心まちづくりを目指します。

具体的取組みの内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（3 防災・防犯分野）」を参照してください。

2

鶴屋町地区

地区の概要

地区の特性（現況・課題等）

- 〔地理的条件〕
 - ・横浜駅の北側のゲートエリア
 - ・帷子川分水路、首都高速道路によりセンターゾーンと分断されている。
- 〔土地利用特性〕
 - ・多様な業種・業態の事業所が立地
 - ・専門学校などの教育関係施設が集積、市民活動を支援する県民センターも立地
 - ・飲食店等が集積、夜ににぎわいがある。
 - ・小規模な駐車場などの低未利用地が多い。
- 〔歩行者ネットワーク・交通〕
 - ・歩行者、自動車、バス、タクシーが錯綜
 - ・溜まり空間や、憩いを感じられる空間が不足
 - ・小規模な駐車場が点在。うろつき交通が発生
- 〔景観・環境等〕
 - ・まちなにぎわいや河川、旧東海道など地区の資源を活用した空間や景観形成がなされていない。

地区の将来イメージ

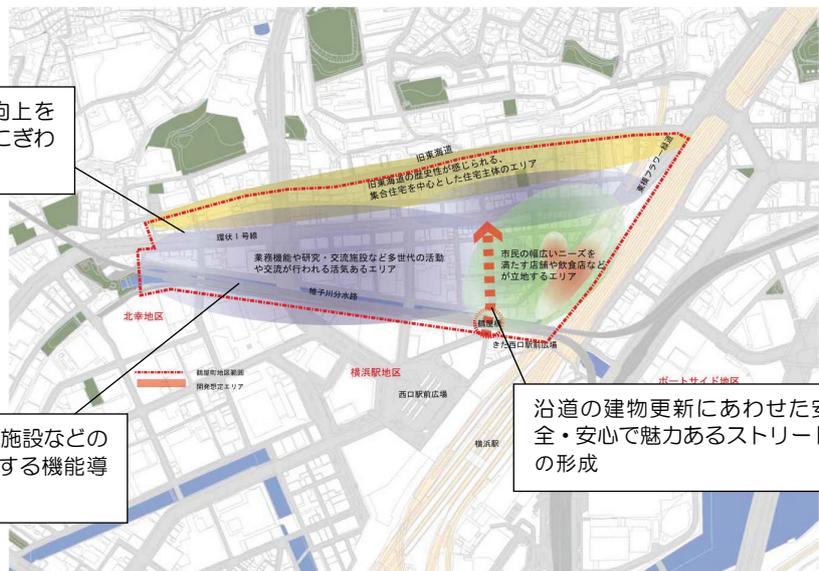
- ・帷子川分水路の北側を中心に、高い専門性を備えた各種の学校や大学のサテライトキャンパス、企業や大学の研究者が利用する研究・交流のための施設などが複数立地するなど、若い世代の活動や交流が行われる活気のある地区が形成されている。
- ・横浜駅のきた西口近辺では、従来から立地する商業機能の更新などによって、横浜市民の幅広いニーズを満たす店舗や飲食店などが立地する商業・業務地区が形成されている。
- ・横浜駅きた西口から鶴屋橋を介し鶴屋町地区内へにぎわいと界隈性と安全・安心が両立した通りが形成されている。
- ・旧東海道沿いでは、歴史性を活かした通りが形成されている。

<将来市街地像のイメージ>

就業者や居住者の利便性向上を図る機能の導入を促進し、にぎわい、界隈性を高める。

業務機能や研究・交流施設などの立地特性を更に増進する機能導入の促進

沿道の建物更新にあわせた安全・安心で魅力あるストリートの形成



ガイドライン

(1) 都市機能の導入・育成

基本的考え方

鶴屋町地区は、横浜駅周辺と反町・台町方面を繋ぐ、横浜駅の北のゲートエリアに位置しており、地区内には、専門学校などの教育施設が集積しているとともに、鶴屋町1丁目を中心に飲食店なども集積しています。

このような特徴を生かした都市機能の集積を進め、にぎわい・界隈性と安全・安心が両立した街を目指します。

ガイドラインの内容

地域の就業者や居住者の利便性を高め、にぎわいと界隈性をもった機能を誘導するとともに、多世代の活動や交流を支援する機能や安全・安心をサポートする機能の集積、センターゾーンとの連携を図ります。

■にぎわいと界隈性を持った商業機能・業務機能

- 日常生活に密着した集客施設
- 来街者を呼び込む集客施設
- 人を優先した回遊性の高い歩行環境
- 個性的な通りの実現 など

■活気のある教育、研究、交流機能

- 若い世代の活動や交流を支援する機能
 - ・高い専門性を備えた各種の学校や大学のサテライトキャンパス
 - ・企業や大学の研究者が利用する研究・交流のための施設 など

■安全・安心をサポートする機能

- 建物更新にあわせた歩行者空間の確保
- 災害時などの滞留スペースの確保 など

■センターゾーンとの連携

- きた西口ターミナルコアから鶴屋町地区への空間の連続性への配慮
- 東横フラワー緑道からセンターゾーンへつながる動線の確保
- 方面別に駐車場出入り口を配置（フリンジ駐車場）
- タクシー乗降場の分散配置
- 自転車、自動二輪駐車場の確保

2 鶴屋町地区

(3) 環境分野

基本的考え方

明日を担う若者が集まり賑わう拠点的地区であるという鶴屋町地区の特徴を生かした都市機能の集積や敷地の統合を進めるとともに、地区内外とのエネルギー・緑のネットワーク形成等を通じて、環境未来都市にふさわしい環境配慮型のまちづくりを目指します。

具体的取組みの内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（2 環境分野）」を参照してください。

(4) 防災・防犯分野

基本的考え方

鶴屋町地区は、センターゾーンに隣接し、沢渡中央公園への避難経路を含む地区で又、地区内には、専門学校などの教育施設が集積しているとともに、鶴屋町1丁目を中心に飲食店なども集積しています。

にぎわいと安全・安心が両立した街の実現のため、民間と行政の協力・連携体制のもと、災害時の滞留スペースの確保、情報提供等による適切な避難誘導、平常時の防犯対策等、ハード・ソフト両面の総合的な対策を進め、安全・安心のまちづくりを目指します。

具体的取組みの内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（3 防災・防犯分野）」を参照してください。

3

南幸地区

地区の概要

地区の特性（現況・課題等）

- 〔地理的条件〕
 - ・センターゾーンに隣接し、駅前と住宅地をつなぐ機能を持つエリアで、中央を通るパルナードを軸に街が形成されている。
 - ・三方を河川に囲まれている。
- 〔土地利用特性〕
 - ・特徴をもった4つのゾーン（大型商業・エンターテイメントゾーン、小規模商業・界限ゾーン、教育・文化ゾーン、都市型住宅混在ゾーン）からなる。
 - ・広い範囲から集まる若者を中心とした多くの来街者でにぎわっている。
 - ・周辺住宅地からは日常の買物客を集めている。
- 〔歩行者ネットワーク・交通〕
 - ・歩行者空間が不足
 - ・放置自転車が多い。
 - ・南幸安心安全街づくり協議会による安全パトロールやパルナードの一定時間帯における歩行者天国化など、マネジメントが実施されている。
- 〔景観・環境等〕
 - ・地区内には公園がなく、緑が少ない。
 - ・比較的築年数を経過した建物が多く存在している。
 - ・地盤高が低く大雨時に浸水の危険性がある。

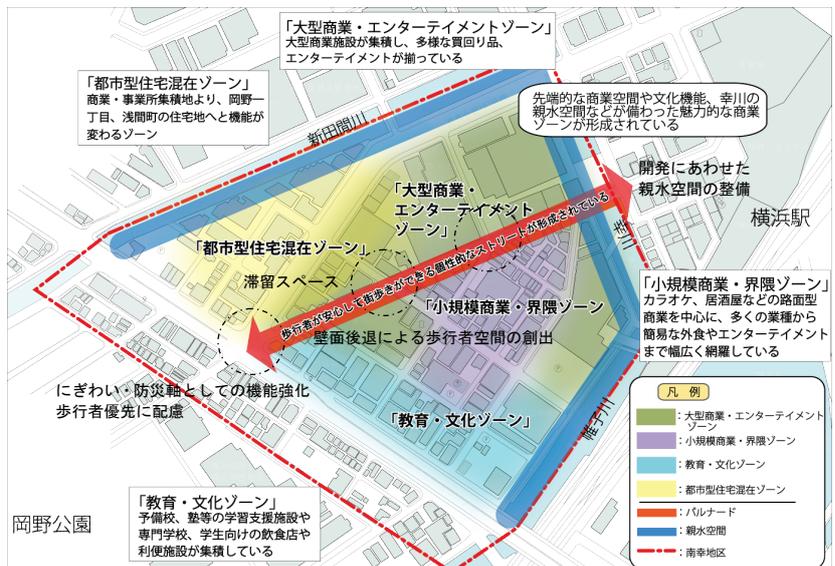
地区の将来イメージ

- ・多彩な店舗や飲食店、娯楽施設を集積してきた地区の特色が活かされ、更に先端的な商業空間や文化機能、幸川の親水空間などが備わって国内外からの来街者や居住者等にとって魅力的な商業ゾーンが形成されている。
- ・パルナードを主軸として、歩行者が安心して街歩きができる個性的なストリートが形成され、若者を中心とした多様な世代の人々が集い、活気とにぎわいにあふれた地区が形成されている。
- ・地域が協力し、災害に強い、安全・安心と快適性を兼ね備えたまちが形成されている。

<将来市街地像のイメージ>

<優先的な取組み>

- パルナードのにぎわい軸としての機能強化
- パルナードの防災軸としての機能強化
- 歩行者優先のまちづくりの推進
- 水に強いまちづくりの推進



ガイドライン

(1) 都市機能の導入・育成

基本的考え方

南幸地区は、横浜駅周辺と岡野・浅間町方面をつなぐ、主要な動線となるエリアに位置しています。地区内は、パルナードを中心に物販、飲食、エンターテインメント等の多様な商業が集積しており、文化・教育施設、住宅等も混在しています。

このような特徴を生かし、更なる都市機能の集積を進め、「にぎわい・活気」と「安全・安心」が両立し、将来の横浜駅周辺の国際化にも対応した街を目指します。

ガイドラインの内容

主要動線であるパルナードは「商業軸、防災軸としての機能強化」を図り、南幸地区内の各ゾーン（将来市街地像のイメージ参照）の特色を生かした魅力あるまちを目指します。

地域の来街者や居住者の利便性を高め、にぎわいと活気を創出する商業を誘導するとともに、路地裏文化等を含む多種多様な文化創造機能の誘導、多様な人々の活動や交流を支援する機能や安全・安心をサポートする機能の集積によりセンターゾーンとの連携を図ります。

また、国際都市横浜と連携した街を目指し、外国人の利便性を高めます。

■にぎわいと活気を持った商業機能

- 集客効果のある大規模商業施設
- 集客力の高い中小の商業
- 生活に密着した商品を扱う商業
- 個性的な飲食店等の集積 など

■安全・安心をサポートする機能

- 建物更新にあわせた歩行者空間の確保
- 災害時などの滞留スペース等の確保
- 来街者に対応できる情報提供等のホスピタリティ など

■人々の活動・交流を促す文化創造機能

- 映画館、劇場
- 国内外への情報発信拠点
- カルチャースクール、イベントスペース など

■センターゾーンとの連携

- 外国人対応可能な店舗、住宅
- 利便性の高い都市型住宅 など

■緑のネットワーク形成

- 通りや川沿いの広場等の緑化
- 建物の屋上面、壁面等の緑化 など

(2) 都市景観の形成

基本的考え方

シンボル軸であるパルナードと周辺の界隈性のある商業ゾーン等の特色を生かし、にぎわいと活気があり歩いて楽しむことができる街並みを形成します。

また、川沿いの水辺空間や街路沿いのにぎわい空間などの地区の資源を生かし、魅力ある景観形成を図ります。

ガイドラインの内容

地区の中心であるパルナード沿いは、シンボル軸にふさわしい景観形成を目指し、建物の壁面後退等による見通し景観の形成、ゆとりある歩行者空間の形成を図ります。

地区全体で建物低層部へのにぎわい施設の導入や、公開空地や緑の創出、デザイン等により歩行者が楽しめる空間とし、地区の回遊性を高める工夫を行います。

また、川沿いは周辺とのつながりを意識し、水を感じさせる空間を演出します。

■シンボル軸にふさわしいパルナードの景観形成

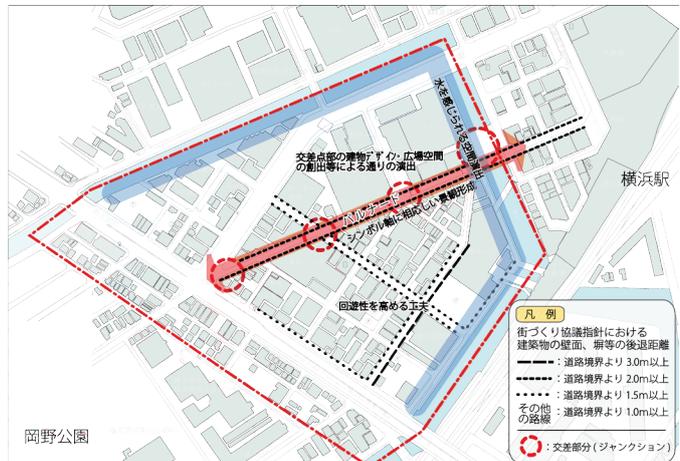
- にぎわい、活気があり、歩きやすい歩行者空間の整備
- パルナードの交差点部分の建物デザイン・広場空間の創出等による通りの演出、回遊性を高める工夫
- 連続した照明計画やサイン計画、緑の創出によるシンボル性の強化
- 壁面後退部分の連続性の確保
- 道路の広がりを感じさせる舗装デザインの工夫

■にぎわいと界隈性のある、豊かな歩行環境の形成

- 開発にあわせた壁面後退等の誘導や低層部のにぎわい施設導入等によるゆとりとにぎわいの連続性がある歩行者空間の演出
- 建物内部のにぎわいが滲み出るような場所に応じた照明計画や建物デザイン
- 街並みとの連続性や周囲に開かれた開放性の感じられる景観形成
- 人の目に触れ、潤いを感じられる緑の創出
- 電線類の地中化

■川を活用した水を感じさせる空間演出

- 河川に顔を向けた建物整備や橋の架け替え等にあわせた親水空間の演出
- 河川の潤いや通りのにぎわいを感じられるパブリックビューポイントの創出
- 水面への映りこみを意識した街路灯やフットライトなどの水辺を生かした照明



(3) 環境分野

基本的考え方

商業集積地区の特徴を生かし、地元の連携・協力により環境配慮・創出への意識を高めます。建物更新の際には、緑化、エネルギー効率の向上等に配慮し、皆が誇れる環境配慮型の街づくりを目指します。

具体的な取り組み内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（2 環境分野）」を参照してください。

(4) 防災・防犯分野

基本的考え方

地元組織との連携、老朽建物の更新等により安全・安心をサポートする機能を発展・強化し、センターゾーンとの連携を図ります。また、水の安全度向上に向けて新規開発等に合わせた浸水対策を誘導します。

パルナードを軸として、地区全体の防災機能を高めるため有効な歩行者空間の確保、滞留スペース、備蓄スペースの整備、情報伝達機能の強化等を実施します。

ガイドラインの内容

■パルナードの防災軸としての機能強化

○有効な避難経路の確保

- ・壁面後退等による歩行者空間の確保、多言語表記等による国際化に対応した避難誘導サイン、災害時にも機能する照明等の整備

○通り沿いや高所の滞留スペース等の確保

その他の具体的な取り組み内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（3 防災・防犯分野）」を参照してください。

(5) 歩行者・親水空間分野、交通環境分野

基本的考え方

老朽建物の更新にあわせた壁面後退等により歩行者空間を拡充するとともに、公共的に利用可能な駐輪場の整備や、駐車場アクセスの改善等により、歩行環境の改善を図ります。

また、パルナードを中心とした通りの維持管理を通して、安全で快適な道路空間を整備します。

ガイドラインの内容

■歩行者空間の拡充

- 建物の壁面後退や歩道の拡幅等による歩行空間・広場空間の整備
- 維持管理による快適性の向上
 - ・放置自転車の取り締まりの継続
 - ・舗装材や道路構造物の更新・維持管理
- バリアフリー
 - ・パルナードのバリアフリー化による、安全で快適な歩行者空間の整備

■自転車環境の整備

- 駐輪場の整備
 - ・新規開発等に伴い、公共的に利用可能な駐輪場の整備
 - ・公共空間での駐輪場整備
 - ・駐輪場施設の使いやすさの向上

■駐車場の計画的配置

- 駐車施設及び進入路はパルナード沿道を避ける
- 駐車場連携の実施
- 荷捌き駐車場の確保、共同化

その他の具体の取組みの内容については、「分野別の基本方針とガイドライン（5 歩行者・親水空間分野）（6 交通環境分野）」も参照してください。

